

〈尽きない粉、尽きない油〉

I 列王記 17 : 8 ~ 16

【背景】

悪政を行ったアハブ王はバアル神（土着の豊穡神）を礼拝し、神への背信行為を自ら率先し行って神の民を墮落へ導いた。干ばつで川は枯れ、飢饉により民は苦しんだ。この厳しい時代に主が用いられたのが預言者エリヤ。王は強大な力を持つ権力者。刃向かうものを殺す力があつたが、エリヤは臆せず真つ向から語る。

「主は生きておられる！」

ツアレファテは、バアル礼拝の本拠地。
そこで神様は貧しいやもめを用いてエリヤを養うと言われた。



1、ためではなく、 ため
一握りの粉と、少しの油があるだけ。
悲痛な飢えがあつたが、エリヤは水と
一口のパンを自分にもってくるように頼んだ。

なんという無理難題をいうのだろう！

これは私と息子のもの。

しかし・・・ツアレファテの未亡人はエリヤの言葉に立ち止まって考えた。

厳しい現状にあると、主に聞き従うのは難しい。これが人間の限界？！

しかし信仰はその限界を越える。そして信仰が働くと現状は造りかえられる。
このチャレンジはわずかしか持たないツアレファテの未亡人に、神様の偉大な力が完全に現れるためだった。

わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。 IIコリ 12 : 9

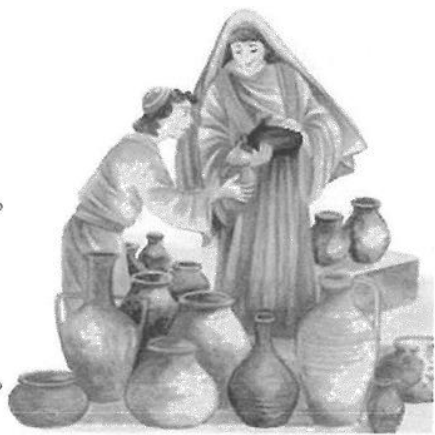
神は私たちから奪うために「ささげよ」といわれたのではなく、
豊かに与えるために、信仰のチャレンジを与えておられる。

2、パンではなく

- ・パンを口にするためには、調理をしなければならない。
調理という働きで主に仕えることを女性に求めた。

- ・不信仰に陥った神の民を、神の元へ立ち返らせる
主の働きをしていたエリヤを養うための奉仕となった。

- ・ツアレファテの女性の小さな奉仕は、大きな主の働きを支えることにつながっていた。



「自分に与えられたもの」を捧げて仕える。これを主が用いてくださる。

3、明け渡す者の内に 宿る

ツアレファテの未亡人は、与えることで与えられるという神の祝福を体験した。
自分の境遇を憐れむ思いから解放され、主の御用に用いられる喜びが生まれた。
自分も何かが出来ると期待が起こされた。

ここに神様のビジョンが宿る！！

かめの粉と壺の油は、使えば使うほど与えられた。

主の器である私達自身も同様。与えれば与えるほど、用いられれば用いられるほど、主は、尽きることのない天からの祝福で満たしてくださる。